

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成23年4月号

編 集 武田 隆久
発 行 人 〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3
社団法人 日本病院会 通信教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <http://www.jha-e.com/>
受付時間 9:00~17:00
(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)
発 行 日 毎月1日
定 価 1部 150円 1カ年1,600円(送料共)
郵便振替 00190-5-396045
名 義 社団法人 日本病院会 通信教育部

東北地方太平洋沖地震及び一連の地震で被害に遭われた受講生の皆様に、
謹んで震災のお見舞いを申し上げます。

(2頁目をご覧ください⇒)

診療情報管理士認定試験について

鈴木 莊太郎

藤沢市保健医療センター 顧問
診療情報管理士教育委員会 委員
東京会場 基礎課程(医療概論) 講師

今年で診療情報管理士の認定試験が全国一斉試験となって4年目を迎え、この間の合格率は50%前後で推移しています。これを、医師や看護師の国家試験の合格率(80~90%)に比較すると、大変な難関と言われています。

今回は認定試験の基本的な考え方に付いて書いてみます。まず、認定試験問題は、診療情報管理士の業務に求められる必要で最低限の知識を確認することでありますので、日常の診療において必須で、頻度の高い疾患や医療関連情報を中心(約80%)にして出題されます。そして、試験問題の原則に従い、高度の専門知識を10~20%程度の割合で作成します。そこで、試験に際しては、最初に出題された問題の難易度を把握して、基礎的で易しい問題から取り掛かることが大切です。

因みに、医学部の試験問題作成を例にすると、約60~70%は基礎的な知識に関する問題で、次により高度の知識を求める問題を約20%、難問といえるものを10%程度として出題問題を構成します。つまり、基本的な知識があれば、合格点に達する内容にしています。不合格であった人達は往々にして、試験で落とされたと言います。実際は基礎的な問題の正解が得られずに、落ちたのだと云えます。恐らく、先に難問に取り掛かったり、少し難解な問題に時間を使い過ぎたりした結果、基礎的な問題に十分な時間が割けなくなり、合格点に至らなかったと推測します。

次に、診療情報管理士に求められるのは、全ての診療科に渡る幅広い医学知識であります。そこで、学ぶ時には関連付けて理解する事が知識を広く持つことになります。例えば、胃潰瘍では、原因(胃酸・ピロリ菌・ストレスなど)により症状(上腹部痛・悪心・嘔吐・吐血など)を来し、診断(X線造影・内視鏡検査など)して、治療(PPI・ピロリ菌除菌など)する、と覚えると同時に、吐血を来す疾患(食道静脈瘤・M-W症候群・胃がんなど)との相違を調べ、さらには出血による血便・黒色便(タール便)を来す大腸疾患(潰瘍性大腸炎や大腸がんなど)の知識を学ぶなど、テキストの章(ICD分類)を超えて調べる事が大切です。幅広く考え、日々の弛まぬ努力が、最終目標を叶える事になると考えます。皆さんの頑張りを期待しています。